



よこはま支部だより

第71号
2019年夏



一般社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部
THE YOKOHAMA BRANCH KANAGAWA PREFECTURE
SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

P1:表紙	P5:総会報告④アルバム	P9:テニス同好会便り
P2:総会報告①	P6:デンマーク×日本 「建築の境界とランドスケープを語る」	P10:ワイン同好会便り
P3:総会報告②	P7:アスベスト対策講座	P11:横浜市建築局からのお知らせ
P4:総会報告③	P8:絵画同好会便り	P12:納涼会お知らせ 編集後記





令和元年(一社)神奈川県建築士会横浜支部総会支部長挨拶

(一社)神奈川県建築士会横浜支部 支部長 渡邊一郎

本日は(一社)神奈川県建築士会横浜支部総会にあたり会員に皆様におかれましては休日に関わらず御出席頂きありがとうございます。

さて建築士会の目的はご承知のように建築士の品位の保持及びその業務の進歩改善に資するため、建築士に対する建築技術に関する研修並びに社員の指導及び連絡に関する事務を行うことです。

本会副会長を兼任しておりますが、最近では会員の減少に悩んでおります。これは資格取得が難しくなったことが大きな理由です。また資格保持者の団体で様々な職業の方がいます。設計にかかわる方が一番多いのですが、施工、教員、役所、また建築とは全く関係のない職業の方もおられると思います。それらの方々に品位の保持はもちろんですが様々な世の中の流れの中で変化する法律、条令を研修通じ伝えるのが大きな仕事です。最近ではさまざまな建築士の資質を問う問題

が発生しておりますが、建築士会会員は資質が高くなる活動を行っております。特に発注者であられる行政当局の皆様には十分ご理解頂きたいと思っております。

然しながら年間予算300万円余の活動は皆様の手弁当、ボランティアが礎です。会員への周知徹底方法、HPの問題等いろいろご不満はあると承知しておりますが、暖かいご理解を賜りたいと思っております。今後も支部活動には格段の配慮を頂きたく、私の挨拶とさせていただきます。



一般社団法人 神奈川県建築士会横浜支部 「令和元年度 第26回通常総会」議事録

一般社団法人神奈川県建築士会横浜支部
「令和元年度 第26回通常総会」議事録
日時：令和元年5月11日(土) 14時00分～



第1部 総会

- 1. 支部長挨拶 渡邊 一郎
- 2. 議長選出 議長 渡邊 一郎
- 3. 議事 1) 平成30年度活動報告

- 総務委員会(統括) 報告者 小笠原 泉
- 厚生委員会 報告者 高橋 伸廣
- 技術・情報委員会 報告者 櫻田 修三
- 広報委員会 報告者 白井 崇雄

- 2) 平成30年度収支決算案・監査報告

会計 報告者 山成 芳直
監査報告 報告者 金子 修司
質疑応答：質問者なし。拍手にて承認。

- 3) 令和元年度活動計画(案)

総務委員会 提案者 小笠原 泉
厚生委員会 提案者 高橋 伸廣
技術・情報委員会 提案者 櫻田 修三
広報委員会 提案者 白井 崇雄

- 4) 令和元年度収支予算(案)

会計 提案者 山成 芳直

- 5) 令和元年度組織図

- 6) その他(質疑応答)

会員数についての質疑応答が行われたが、いずれの議案も拍手で承認された。

- 4. 来賓紹介・黒田 浩 横浜市建築局長
- ・金子 修司 (一社)神奈川県建築士会 会長
- ・井上 憲二 (一社)横浜市建築士事務所協会 専務理事

第2部 記念講演

「作品づくりと社会貢献の両立を目指して」

講師：講師：坂茂 氏

(建築家・京都造形芸術大学教授、慶応義塾大学環境情報学部特別招聘教授)

第3部 懇親会

参加者：67名
乾杯発声：星 雅巳
中締め挨拶：畠 宏好





支部総会 記念講演

『作品づくりと社会貢献の両立を目指して』坂茂氏の講演

 横浜支部 有泉 絵美

時にはユーモアを交えながらの講演会は、あっという間に会場が一体となり、坂ワールドに包み込まれていった。建築家は社会の役に立っていない、被災し家を失い避難所を経て仮設住宅に住むが、この仮設の環境をよくするのも建築家の仕事との思いから被災地での活動を行う。その地域の学生と仮設住宅を作る事は教育活動の一環とも捉えている…と、序盤から坂氏のパワーに圧倒された。



作品づくりには、常にテーマがある。1990年頃、アルヴァ・アールトの展示会の仕事では、事務所にあるロール紙の芯材に目が止まり、「紙管」を使用。紙管は、どの工場でも制作でき、径も様々なので、十分構造体にもなり得るとの判断から、構造家の松井源吾氏に強度実験を依頼し実用化となる。2000年、フライ・オットーと仮設展示場を設計した際は、デザインのゴールは解体時と考え、リサイクルできる材料として紙管を採用。その後、N.Y、L.Aと開催地が移動する仮設施設を設計される。材料は、各開催地で入手できる「コンテナ」を採用。コンテナは大きさも同じ故、1ユニットをデザインすれば、応用性が効く。このコンテナは「ピクチャー・ウインドウ」に発展し、ピクチャー・ウインドウの家

(2002年)が完成。その後、ピクチャー・ウインドウの枠に着目し「ガラスシャッター」へと発展する。この頃の作品がニコラス・G・ハイエック センター(2007年、銀座)やメタル シャッター ハウス(2012年、N.Y)である。両作品には、ピクチャー・ウインドウも含まれている。



このように坂作品は、今までの作品に新たなテーマを加算し無限の可能性を秘めている。このテーマを読み解くのが大好きな私。坂氏とは、大学4年時の製図授業以来だが、服装・髪型はもちろん、イズムも変わっていない。授業中にディベートした美術館論、フライ・オットーのミュンヘンオリンピック競技場を翌週までに模型で再現…等、ヘビーな課題から多くを学んだ事が懐かしく、とても貴重な経験だったと再認識した。



デンマーク×日本「建築の境界とランドスケープを語る」

技術・情報委員会 内藤 能里子

2019年2月20日(水)、馬車道の大津ギャラリーで横浜支部 技術・情報委員会主催の林英理子氏による「建築の境界とランドスケープを語る」講演会が開催されました。

林氏は、デンマークでランドスケープデザインを勉強され、その後ランドスケープデザイン事務所(Jeppe Aagaard Andersen)で勤務、建築事務所(VANDKUNSTEN)で勤務した後、独立して設計事務所をしながら、大学で非常勤講師をされています。今回は、実務を通じた貴重なお話を聞くことが出来ました。



林さんが1999年にデンマークで参加した『クロンボー城要塞および造船所跡地整備』のコンペティションは、9年近く計画の見直しや市民との意見交換が行われた後2013年に竣工されました。基本設計～実施設計が終わり、順次施工が行われている間も市民のチェックは厳しく計画の変更がないか見ているそうです。そのため、基本計画とほとんど変わらない形で完成しました。この話で、公共事業に対するデンマーク市民の意識レベルの高さを感じました。日本では与えられたものに意見を言う人は多いですが、自分たちで環境に

ついて考え行動できている人はあまりいません。デンマークは夕方には仕事が終わって、家族と過ごす時間や家の手入れを自分でするのが当たり前だそうです。そんな暮らしの中では、公共事業もしっかりと自分の環境の一部として認識され市民の目が行き届き、自分も一緒に作るという意識が高いのではないかと思います。



それから、デンマークでは植物の成長・変化について事業者間の意識が共用化されていることです。植物が成長して変化する事で景観が作られるという共通の認識があります。日本では竣工当初がとても綺麗に出来上がり、その美しさを維持管理される事が求められます。植物は生き物です。5年、10年、20年後には全く違う形となり、成長の変化によって見せる表情が変わります。また、そこが植物の魅力の一つです。設計者や施主が、植物の成長速度をランドスケープデザインの計画にしっかりと盛り込み一般化されると、時間の流れと共に更に魅力的な風景が生まれると思われました。



アスベスト対策をお聴きして

横浜市の総合的なアスベスト対策、そしてアスベストの作業現場に携わる方々のお話をお聴きし、アスベスト問題について考える一つの機会を与えていただきました。

ここに、受講者の一人としての思いの一端を述べさせていただきます。

アスベストの存在の認識から処置の完了までが、適法な正しい手順を経てなされるべきこと。その作業は、施主・設計者・施工者等々相互の間での、アスベスト対策に対する共通の認識・理解をもってなされるべきこと。これらの重要性を痛感しました。

そして、今現在と未来を生きる人々に対する愛情と尊厳を守る堅固な決意の共有が大前提になることも確信しました。それは、アスベストの危険性について正しく認識する科学的な努力の上に、今現在と未来に生きる人々の健康を連続的に守り通すことを最優先の価値とする思想の堅持です。

今は、建築を生業とする者だけでなく、一般の市民にこそ、アスベストの正しい知識とそれを適用する高度な人間的知性や倫理性が求められているのではないかと、改めてとらえ直しました。

アスベストを含む建築物等の所有者は、殆ど一般の市民です。アスベストを所有する限り社会的な責任は持続します。そして、所有者は被害を与える側であり、街を歩けば同時に、「ばく露」する側にも立ち得ます。私達が最優先する価値を守ろうとするならば、も

湘南支部 橋本 守

はや、一方の立場に留まることはできません。したがって、アスベストについての知識を持つことは、市民の義務でもあるとの考えが生まれます。



横浜市は、アスベスト専門業者の処理現場への立ち入り・指導もすると言われます。現場で働く人達の完璧な安全確保と共に、作業技術の洗練・進化を願うばかりです。

また、市にはアスベスト関連工事の申告事例が蓄積され、工事の実態や改善点・問題点などの貴重な情報やデータも蓄積します。これらを業界関係者だけでなく、一般の市民にも分かりやすい形で公開され、共有が進行するならば、市民のアスベストに対する正しい理解を更に深めることが出来ます。その上、行政・市民・専門業者の協力関係も増幅し、アスベスト排除の機運が更に高まると思われれます。

本講座では、専門家としてアスベスト対策に関わる行政・業界の方々の本気度を、力強く感じる事が出来ました。感謝と共にエールを送らせて頂きます。



絵画同好会便り



『スケッチ会』 5月26日(日) 参加者6名

年号も令和に移り、私達昭和世代が今行っておきたい場所「昭和記念公園」でスケッチ会を催しました。午前中は「昭和天皇記念館」を見学し、午後より広大な公園内をバス移動し、5月とはいえ真夏を思わせる陽気の中で、日本庭園でスケッチを楽しみました。



▲塩原会員



▲芹澤会員



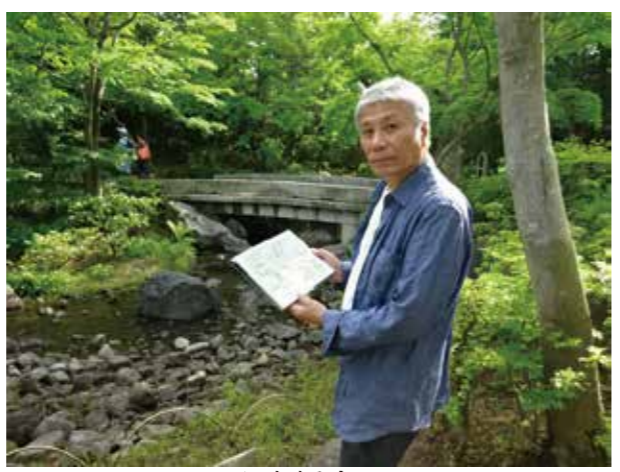
▲菊地会員



▲藤井会員



▲田中会員



▲高橋会員



テニス同好会便り



定例会報告 場所:金沢産業振興センターテニスコート

11月24日(土) 参加者5名
人数は少なかったのですが、たっぷりプレーができました。

12月8日(土) 参加者6名
今年も残すところ、あと2回の定例会となりました。2面でしたが参加者は6名でしたのでゲームと練習に分けてたっぷりテニスを楽しみました。

12月22日(土) 参加者4名
第300回の記念すべき定例会はあいにくの雨模様となってしまいました。4時間の予定でしたが、最後の1時間半ぐらいしか出来ませんでした。参加者は4名でしたので十分ゲームができました。定例会後お疲れ様会をしました。

平成30年1月12日(土)

参加者9名
本年最初の定例会です。雨の予報でしたが、初打ちに9名が参加しました。何とか4時間は雨が降らずに無事定例会を行うことができました。

1月26日(土) 参加者10名
とても寒い日でしたが、今年初めての雪がぱらつきましたが、寒さにもめげずゲームに集中しました。

2月9日(土) 参加者7名
雪の予報がでていて中止を覚悟していましたが、ちょうど定例会の時間帯は曇りの天候に変わったため、7名が参加し何とか行うことができました。後半はやはり雪が降ってきましたが、皆さん寒さも気にせずプレーに夢中でした。

2月23日(土) 参加者9名
テニスには良い季節になってきました。天気はまずまずでしたが、風があり皆さんプレーに苦戦していました。

3月9日(土) 参加者8名
気温も高く、快晴の天候となりましたが、強風のためとても大変でした。ミラクルショットが続出しました。

3月23日(土) 参加者4名
午前中から雨が降り続いていましたが、午後3時~5時の2時間だけ雨が上がり 何とか開催することができました。とても寒い中の定例会でしたが、6ゲームの試合をたっぷり楽しみました。

4月13日(土) 参加者11名
桜は満開の見ごろは過ぎていましたが、天気も良くテニス日和となりました。4時間たっぷり練習、ゲームを楽しみました。

令和1年5月11日(土) 参加者9名
新緑が綺麗な季節となり、テニスにはとても良い気候となりました。今回は、2時間でしたが久しぶりの参加者あり、とても楽しい定例会でした。

5月25日(土) 参加者8名
5月の気温としては記録を更新しているとのことで30度越えで、とても暑かったです。休憩をとりながら、ゲームには熱が入っていました。

6月8日(土) 参加者8名
梅雨に入り、不安定な空模様で心配していましたが、青空も出て何とか行うことができました。1面には延べ8名が参加して、のんびりとゲームを楽しみました。



テニス同好会 会員募集中
テニスに関心のある方なたでも参加可能です。特に女性大歓迎!お気軽に連絡ください。
定例会は原則第2・4土曜日を予定していますが、予約状況により異なりますのでお問い合わせください。ご連絡の際はメールの場合でもお名前、連絡先の記入をお願いします。
連絡先:玉野 TEL:045-894-8452 FAX:045-893-6614 n.tamano@architect-tamano.jp



「食は温度に有り」が私のモットーですがワインの飲み頃の温度は一般に葡萄の種によって次のようです。

白 カベルネ・ブラン種	酸味さわやか	8度～10度
白 シャルドネ	酸味まろやか	12度～14度
赤 ピノ・ノワール	渋味やわらか	14度～16度
赤 カベルネ・ソーヴィニヨン、メルロ	渋味しっかり	16度～18度

温度が高過ぎるとブケが散ってしまい、低すぎるとブケが感じられなくなり味も閉じてしまいます。同じワインでもグラスの形、大きさによって香り、味、共にかなり変わります。NHKの実験でも一般にボルドー形のグラスは釣り鐘状で口径よりも胴回りが太く飲む時、口の中に細く勢い良く入り上舌のみに行き渋味を抑える事が出来ます。

これに対して背が低く口径と胴回りが同じカラッパ形だと渋味を感じ、舌の周辺や裏側に行き渡って渋味を強く感じます。(渋味は味覚では無く触覚、痛覚に属します。)ワインはグラスの胴回りの最も大きい所迄注ぐので香りを重視するブルゴーニュのグラスは洋梨状で口径よりも胴回りは更に大きくなっています。これ等の事が分かっていて着色、模様、カット、大きさ、形、等々遊び心を持って選ぶ事も大事です。ワインが入った時のコントラスト、調和、影等美しくなるものです。ワインは視覚、嗅覚、聴覚、触覚、味覚、人との対話、人間性等の総合芸術なのです。



ワイン同好会 藤井 利時さん▶

市民の方に向けて
建築基準法をわかりやすく
解説したパンフレット

横浜市 建築局からのお知らせ

「かんたん 建築基準法」をご活用ください

建築工事を行うにあたり、周辺住民の方の不安を軽減し、円滑な工事を進めるためには、事前に工事内容等について説明することが重要です。

本市では、住民の方に向け、建築基準法令の基本的内容を分かりやすく説明したパンフレットを作成しました。**このパンフレットを、住民の方への説明の一助として、是非ご活用ください。**

1 建築工事に関する電話相談の状況

横浜市建築局には、たくさんの建築・開発に係る相談が寄せられています。そのうち、一戸建て住宅等の小規模な建築工事に関する電話での相談は、平成30年度では、450件ほどあります。具体的には、計画内容に関する情報提供を求めるもの、工事や計画内容の安全性に関する相談等が主な内容です。

2 建築工事の事前説明の必要性

本市では、中高層建築物等、一定の規模の建築物等については、条例で事前説明を義務付けております。これらの条例の対象外となるような、一戸建て住宅等の**小規模な建築物につきましても、計画や工事の内容について、事前に説明を実施して頂くことは、周辺住民の方の不安を軽減し、また、工事を円滑に進めることにもつながります。**

3 事前説明等のサポート資料等

(1) 建築基準法の解説やよくある相談のパンフレット

建築基準法や、よくある相談について、わかりやすく解説したパンフレットを作成しました。事前説明の際の、一助としてご活用ください。



建築に関するお話
かんたん建築基準法



○建築基準法の解説
用途地域、接道、防火指定等の基本的なルールを紹介



○よくある相談
隣地のがけ、工事の騒音振動等に関する相談の対応例を紹介



(2) 中高層建築物に関する相談・紛争調整制度

中高層建築物については、事業者と周辺住民の方が計画や工事の内容を調整される際に、横浜市や専門家がサポートする制度(専門家助言制度、紛争調整制度)を設けておりますので、必要に応じて市民の方にご案内するなど、ご活用ください。

問い合わせ先 建築局情報相談課 (電話:045-671-2953 FAX:045-681-2436)



夏の納涼会



日 時：令和元年8月23日(金)
 受付開始：18:10
 開 宴：18:30
 場 所：アニヴェルセルカフェみなとみらい
 会場住所：横浜市中区新港2-1-4
 会場TEL：☎045-441-0404
 会 費：会 員 5,000円
 賛助会員 6,000円

JR根岸線・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車 徒歩8分



新入会員（平成29年以降の入会者）
 ＊特別会費 3,000円

会員増強・体験キャンペーン
未入会者（建築士に限る）2,000円
紹介者（会員）さらに1,000円割引
知人、友人の方をぜひお誘いください

応募締切：8月14日(水)



【編集後記】

よこはま支部だより70号より、広報委員に加わりました松本新吾です。よろしくお願ひします。私は現代アートに触れることが好きですが、中でもベルリンを拠点に活動している塩田千春氏の2001年横浜トリエンナーレの「皮膚からの記憶」は印象的でいつか作家の作品へ直接触れてみたいと思っていました。

先日、森美術館で開催している「塩田千春展魂がふるえる」でやっと作品に直接触れることが出来、その生死、自身の存在に辛辣に向き合わせられるかのような作品に圧倒されました。この展示会に向けて作家が闘病生活を送りながら向き合った作品の数々は、想像以上に語りかけるパワーがあった



ように感じ、また触れたいと思いました。3年に一度の横浜トリエンナーレの会場が横浜美術館とプロット48。期間が来年2020年7月3日から10月11日に決まり今から楽しみです。

【広報委員】

白井崇雄・落合 博・玉野直美・丸山幸一
 雨森隆子・畠 宏好・太田真理子・遠堀太陽
 松本新吾

【発行】

一般社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部事務局
 〒231-0011 横浜市中区太田町2-22
 神奈川県建設会館 5階

Phone:045-201-1284

Fax.:045-201-0784

<http://www.kanagawa-kentikusikai.com/sibu/yokohama/>